

# KINO 徒然通信

2026. 2

2026年が始まりましたね、今年は大雪の北海道、一面真っ白な世界はきらきらして美しいけれど、交通機関が大変なことに。終わりが見えない雪かきも大変ですね。お客さまからは「いつまでやっていますか？ 行きたくても大雪でバスが止まっています」というような泣きそうなお電話に、申しわけなさいっぱいになります。

キノの新年を飾ったカラックスの「ポンヌフの恋人」、若い方からご年配までお正月をにぎわせてくれました。若い皆さんはDVDで見たことあるという方から、初めて体験するという方がほとんどで、先日も高校生女子4人組が初めてキノ体験。映像と音、生のエネルギーに満ちたこの作品をどのように受け止めてくれたかな？ 上映後に彼女たちがどんな表情で出てくるかこちらの方がどきどきしてしまって。もっと観たい、って思ってもらえると嬉しいな。

さて2月からは注目の作品が目白押し。先日アカデミー賞ノミネート作品が発表になりましたね。

ムービーラインナップの表紙を飾った「センチメンタル・バリュー」。最終校正の時に発表があり大慌てで8部門9ノミネートという快挙を入れました。

幼いころに父は家を出て行った。残された姉妹と母の暮らし、大きくなった姉妹は心に傷を抱えていた…。

映画監督の父は新作の準備で、俳優になった娘ノーラに連絡を取ります。ノーラを主演に映画を撮りたいと。

娘は怒りが爆発、拒絶する。父と娘、あまりに不器用なふたりは、実はよく似ている。

辿り着いた結末に、映画ならではの豊かさに涙が止まりませんでした。

「ノマドランド」のクロエ・ジャオ監督新作「ハムネット」もアカデミーの注目作ですね。楽しみでなりません。

今回急遽上映決定でムービーラインナップに間に合わなかった作品「決断のとき」。

「オープンハイマー」のキリアン・マーフィーが原作者クリア・キーガンのベストセラー小説「ほんのささやかなこと」に深くほれ込み自ら映画化を希望。アイルランドに実在した“マグダレン洗濯所”の人権問題を背景に描かれるのは、社会が長く黙認してきた現実を前に「知ってしまった個人はどうふるまうのか」を静かに問いかける人間ドラマです。

寡黙に葛藤する男を見事に演じています。ふとケン・ローチ監督の「麦の穂を揺らす風」を思い出しました。

そのケン・ローチ監督の新作「オールド・オーク」がついに登場、次号のムービーラインナップでご紹介します。

ダルデンヌ兄弟監督の新作「そして彼女たちは」も登場です。少女たちに優しく寄添うようなまなざしが小さな一歩へと導かれるようで、映画に込められた言葉にならない思い、その豊かさに触れたような感動でした。

2026年も世界中の様々な映画たち、キノをどうぞよろしく願いいたします。

シアターキノ 支配人 中島ひろみ